

# 令和6年度 全国学力学習状況調査からわかる

## 本校の傾向と課題について

羽曳野市立 恵我之荘小学校

### 【調査の目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらにそのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

※今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

### 【国語】

- ・「話すこと・聞くこと」で目的や意図に応じて、日常生活の中から課題を決め、伝え合う内容を検討する問題の正答率が大阪府の平均よりも高かった。児童の身近にあるSNS（メール）が題材になっていたということと、日々の授業でも「どうしてそのような工夫をするのか？」根拠を考え伝え合うことを大切にしている結果だといえる。
- ・思考力・判断力・表現力の「B 書くこと」の項目が全国平均より低かった。正しい情報を読み取り、それに合わせて自分の意見や考えを表現することに課題が見られた。低学年から書くことに抵抗がなくなるように、楽しんで表現できる工夫を積み重ね、高学年で情報に合わせた自分の意見や考えが表現できるような指導をしていく。
- ・無解答率が全国平均より高い。時間配分に注意しながらテストに取り組むことや、すぐにあきらめるのではなく、最後まで取り組むことを指導していく。

### 【算数】

- ・1（2）のはじめの数を□まいとして、38枚もらって62枚になったというお話から、□を使った式を選択する問題の正答率が高かった。式の意味を考えたり、数量の

大小関係など数直線などの図を活用したりしながら、授業づくりと進めているので、数量の関係を正しく読み取ることができていたと考える。

- ・思考・判断・表現を問われるもので、記述式の問題に課題が見られた。また、数と計算領域でも、基本的な計算はできているが、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉で説明することに課題が見られた。
- ・日々の授業で、計算の答えだけでなく、どうしてそうなるのか理由を書いたり、自分の考えをノートにまとめたりする時間を増やしていく。ICTを活用し、考えの交流を充実させることも大切にしていく。

### 【児童質問紙と各教科から】

・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という項目でははまると答えた児童が全国平均より上回り、高かった。コロナ禍で少なくなっていた学校行事やクラブ・委員会、ペア学年との交流なども増えたことで、高学年が見本になる姿も多く見られるようになったことが成果として挙げられる。

・「普段の生活で、幸せな気持ちになることはどのくらいありますか」という項目では、よくあると答えた割合が全国平均よりも上回り、高かった。授業や生活場面で、児童一人ひとりを認め、自己肯定感を高めることを大切にし、集団づくりに力を入れている成果だと考える。

・「1日あたり、どのくらいゲームをしますか」という項目では、4時間以上と答えた割合が全国平均に比べ高かった。ゲームの時間を学習や読書、運動に変えることができるよう、自主学習の手引きや、図書日より、保健日よりなど保護者への啓発も取り組んでいる。

### 【クロス集計分析より】

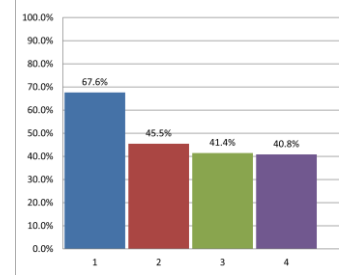
クロス集計とは、教科の調査問題結果と生徒質問紙・学校質問紙の調査結果の相関関係を見た集計のことです。「児童の生活などに〇〇のような傾向があれば、平均正答率が高い傾向がある」「学校が〇〇という取り組みを行ってれば、平均正答率が高い傾向がある」といった相関関係を調べたものです。

### 学校における指導や児童の意識と学力との関係

次の指導を行った、もしくは児童が次のような意識をもっている場合、教科の平均正答率が高い傾向がありました。

- ・ 将来の夢や目標を持っていますか
- ・ 学校に行くのは楽しいと思えますか
- ・ 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思えますか
- ・ 自分には、よいところがあると思えますか
- ・ 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか
- ・ 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
- ・ 各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか
- ・ 目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか

国語の「書く力」に関する相関関係



本校では、違いを認め合い、高め合うことができるように、日々教職員がチームとなって児童の指導・支援をしています。「学校に行くことが楽しい」と思えることを一番に、児童一人一人の良さを認めることを大切にしています。結果、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思えますか」の項目では、全国平均より高い結果となっています。引き続き、児童の自尊心を高め、人権を尊重した教育を続けていきます。

また、以前より授業改善に取り組んでいます。他の意見や考えのよさに気づき、個々の輝く集団づくりをしていくことや、児童の達成感や成就感を高められるように、今後も授業研究を続けていきます。

### 【児童の主体的な学びを推進するために】

個が生きる学び ～数学的な表現力を高めるために～ を研究テーマに設定し、職員全体で授業改善、授業研究に取り組む。

- ・ 児童が主体的になる教材研究や発問などの指導技術を高めること。
- ・ 対話的に学ぶ話し合い活動や、自分の言葉で説明できる活動を取り入れる。
- ・ 対話的で、児童の意見が主体的に、つながり、より高め合える、深い学びを創造していく。
- ・ 書く場面を増やし、授業や日々のふりかえりを書く。
- ・ 自分の考えを整理できるノート指導や授業の流れがわかる板書を研究し、筋道立てて書けるようにする。

### 具体的な取り組み

- ① 話す、聞くあいうえお、授業の流れの掲示（環境整備）
- ② 朝読 ⇒ 朝マス（5分）学年に応じたマス計算のプリントに取り組む
- ③ 日記（1日の生活のふり返し）
- ④ スピーチ（朝の時間、帰りの時間など）
- ⑤ 群読や音読
- ⑥ ドリルパークでの復習や予習（家庭学習や空いた時間に）
- ⑦ 学期に一回、計算テスト、CBT
- ⑧ 3年生から算数、少人数指導
- ⑨ 全学年、国語算数、学力調査型テスト3月
- ⑩ 授業アンケート（児童、教職員）